

【アメリカ】 TPP(環太平洋経済連携協定)に関する下院公聴会

海外立法情報課・新田 紀子

* 2012年5月17日、下院外交委員会テロ・不拡散及び貿易小委員会並びに同委員会アジア・太平洋小委員会は、民間の関係者を証人として、「TPP:課題と可能性」と題する合同公聴会を開催した。書面で提出された証言を中心に日本に関する発言を紹介する。

両小委員長の冒頭発言

公聴会冒頭に、ドナルド・マンズーロ(Donald Manzullo)下院外交委員会アジア・太平洋小委員長(イリノイ州、共和党)が発言した(注1)。同小委員長は、米国経済の長期的な将来におけるTPPの重要性を強調すると同時に、重要な分野ごとの問題にも取り組まなければならない旨発言した後、「日本、カナダ、メキシコの参加の可能性は、問題を飛躍的に複雑にし、協定の実行可能性を脅かしさえする。自分(マンズーロ議員)は、日本が自動車、金融サービスや農業分野で、米国産業の利害関係者の要求を満たす困難な改革を行う政治的意思を持っていないことを心配している」旨述べた。しかしながら、日本がこれらについて自らの立場を「まとめられる」のであれば、日本のTPP参加を完全に支持すると述べた。

エド・ロイス(Ed Royce)下院外交委員会テロ・不拡散及び貿易小委員長(カリフォルニア州、共和党)は、事前に提出された書面証言(注2)において、アジア・太平洋地域の経済的重要性については誇張しすぎるということはないが、米国が行動しなければ、米国の労働者はこのダイナミックな地域から締め出されるであろうと述べ、現在のTPP参加国全体は米国にとり5番目の貿易パートナーであるが、日本が加わるならば、この貿易圏は世界のGDPの3分の1以上を占めることになる旨指摘した。

証人の書面証言

フィリップ・レヴィ(Philip Levy)コロンビア大学国際・公共問題大学院非常勤准教授は、これまでのTPPの交渉に参加している9か国は、2011年の米国の商品輸出の1054億ドル、7%超を占めるが、米国の貿易相手国上位4か国のうち3か国を占める日本、カナダ、メキシコが参加すれば、同年の財の輸出は9000億ドルを超えると説明した。さらに、貿易量の問題を超え、日本という真の通商上の巨人に市場開放の改革を約束させることは、米国の長い間の国際経済政策の目標であると述べた上で、TPP加盟の見込みは、相当の国内政治上のコストで、野田首相にまさにその改革を行わせるよう仕向けたと日本の参加の利点を指摘した。また、行政府と議会との間で率直な議論を行い、交渉の現実的な日程に合意しなければならないと述べ、現在の交渉国の間で締結の準備がほぼできているのであれば、日本、カナダ、メキシコに対してはも

う少し後まで待つように言うことができるが、(自分(レヴィ准教授)が恐れるように)2013 年半ばあるいは後半まで締結しそうもないのであれば、これら重要な国々を押しつけることは受け入れ難いことが証明されようと指摘した(注 3)。

リンダ・メンゲッティ・デンプシー(Linda Menghetti Dempsey)米国貿易緊急委員会(Emergency Committee for American Trade, 以下「ECAT」)副会長は、ECAT は、TPP を支持する米企業連合(U.S. Business Coalition for TPP)の事務局も務めていることに言及し、加盟企業は海外市場での成長を求めており、全ての米国民は、国際貿易が創出する、低価格、低インフレ率、低利率の恩恵をうけると ECAT の基本的な立場を説明した。アジア太平洋地域において交渉中あるいは効力を有する自由貿易協定(以下「FTA」)は 100 以上あるが、その多くは米国を除外していると指摘し、ASEAN・豪州・ニュージーランド、中国・ニュージーランド、ASEAN・中国、ASEAN・インド間の FTA に言及した後、日中韓 3 国が FTA の交渉開始に合意したことについて触れ、これらの FTA は、関係国の通商上の絆の深化を反映しており、それはまた、米国がこれらの不可欠の成長市場から排除される危険にさらされていることになることと述べた。また、TPP が目指す最終的な合意内容として、包括的な協定かそれとも各国がセンシティブ(敏感)品目や規則を除外するよう求め続けた結果、「野心的」な内容でもなければ米国の経済的利益でもない協定になってしまってもよいのかと問いかけ、ECAT の視点からは、財、サービス、投資の全てに市場を開放すべきであると主張した。さらに、米国が原産地規制などの方法によって主要な製品や農産物を全部ないし実質的に除外し、豪州が投資家保護条項(外国投資家と国家間の紛争に関する条項)を、ASEAN 関係国が金融サービスを除外するならば、日本、カナダ、メキシコはおろか、現在交渉中の他の国々は他に何を交渉の対象からはずすことになるのかと懸念を表明した(注 4)。

セレステ・ドレイク(Celeste Drake)AFL-CIO(米国労働総同盟・産業別労働組合会議)通商・グローバル化政策スペシャリストは、FTA の相手国の選定にあたっては注意深く検討すべきであると主張し、米国通商代表部(USTR)は関税引下げの通商上の効果や投資家の権利の増大の分析ばかりではなく、人権や労働者の権利状況についても考慮すべしと述べた上で、この点に関し、AFL-CIO はベトナムと日本について、特定のしかし USTR とは非常に異なる懸念を有していると述べた。

高賃金国であり労働者の組織化が進んでいる日本については通商上の懸念があるとして、日本市場は外国製品に対する閉鎖性で悪名が高いが、それは高い関税障壁の結果ではないと述べ、日本への意味のあるかつ実質的な市場アクセスを獲得するためには、非関税障壁の問題を取り上げなければならず、対日アプローチは、過去の通商協定における経済全体の規制緩和とは異なるものでなければならぬと指摘した。対日商品貿易赤字のおよそ 75%は自動車製品であり、この分野の 2010 年の米国の赤字は 442 億ドル、前年比で 35%増加しており、米国の自動車関連の雇用の喪失は、関連部門やその他の国内経済に負の波及効果をもたらしているなどと説明し、現在、米国は軽トラックに 25%、自動車及びほとんどの自動車部品に 2.5%の関税をかけているが、

これらが撤廃されると、米国の対日自動車貿易赤字は、日本の TPP 参加とともに増加するであろうと述べ、日本の自動車メーカーが関税撤廃による棚ぼたの利益を得れば、競争の激しい市場で米国の雇用を維持することは非常に難しい旨指摘した(書面証言の注では、日米経済関係の規模が大きく、その主要部分が自動車部門の国際貿易と投資であることを考えれば、二国間のアプローチの方が、米国が求めている国内雇用の創出の達成度が高いかもしれないとも述べている)。過去の対日通商関係は、繰り返される交渉や日本の WTO 加盟にも関わらず、何十年もの間変化させることに失敗しているので、外国製品への市場の開放度の測定可能な実績や、意味のあるセーフガード措置なくして日本の TPP 参加を許すことは経済的に無謀と考えられようと述べた(注 5)。

スーザン・シュワブ(Susan Schwab)メリーランド大学教授は、同教授が米国通商代表を務めていたブッシュ前政権時代に米国の FTA が増えたことを示しつつ、日本などの新たな TPP 参加国の可能性について、TPP は当初から 5 か国で止まること、あるいは 9 か国や 11 か国、(日本が入れば)12 か国で終わることを意図していたわけではなく、高い基準の協定を受け入れる意思のある国は参加可能であるべきだと主張し、政策のシークエンシング(sequencing、優先順位付け)の問題が難しいが、TPP は大きければ大きいほどよいと述べている(注 6)。

注(インターネット情報は、2012 年 5 月 30 日現在である。)

- (1)マンズーロ小委員長の冒頭発言は<<http://www.youtube.com/watch?v=faMaqNDOszQ>>参照。
- (2)ロイス小委員長の書面証言は<<http://foreignaffairs.house.gov/112/HHRG-112-FA18-MState-R000487-20120517.pdf>>参照。
- (3)レヴィ准教授の書面証言は、<<http://foreignaffairs.house.gov/112/HHRG-112-FA18-WState-LevyP-20120517.pdf>>参照。
- (4)デンプシーECAT 副会長の書面証言は<<http://foreignaffairs.house.gov/112/HHRG-112-FA18-WState-MenghettiL-20120517.pdf>>参照。書面証言によれば、ECAT は、1967 年に設立された米国の国際的な企業の首脳が集まった組織であり、加盟企業全体で、毎年の売上げは 30 億ドル、従業員は 640 万人を超え、その目的は、国際的な通商と投資の拡大を通じた経済成長の推進である。
- (5)ドレイク氏の書面証言は、<<http://foreignaffairs.house.gov/112/HHRG-112-FA18-WState-DrakeC-20120517.pdf>>参照。
- (6)シュワブ教授の書面証言は、<<http://foreignaffairs.house.gov/112/HHRG-112-FA18-WState-SchwabS-20120517.pdf>>参照。